菩薩行の肝心(2)

極楽と仏



ミッキーマウス

## わが家を極楽にして、仏さま、になりましょう

極楽と仏

父母・兄弟・わが子ら家族に喜びを与える。ほこまだい。このかぞく、ようこのあた

て、わが喜びとすることを怠らず実行して

ゆくことが、幸福の基です。

中ニコニコの生活になります。きっと家族から感謝される人となり、

家き

この喜びを、近所・隣にも及ぼしてゆくでニコニコの生活になります。

よう努めましょう。

の極楽に住む人が、仏であります。

対も町も、段々「極楽」になります。そ

=御開山上人御法話資料=

わが家を「極楽」とする菩薩行の肝心は

、人を喜ばせることができたことがありが

たい〟と、実行できたこと自体を喜んでゆ

くことです。
、こういうことをしたら徳が

もらえそうだ。とか、ご利益が頂けるのでくことです。これが、これでは

行とは言えませんし、極楽には程遠いと思いるとは、菩薩は、ということを考えてすることは、菩薩は、ということを考えてすることは、菩薩の

います。

自分が善い行ないができるようになった

これは御前様が〝杉山先生から最初に言わことを〝ありがたい〟と感謝してゆくこと、

れたこと〟というようにお聞きしています。

杉山先生はすぎゃませんせい 御前様 のお若か い質え 11 あなたが

法華経を勉強し、 と思うなら、 親のない子を育て、幸せに その意味を本当に知りた

名古屋に帰られてからは臥竜山の農場に不なごや、かん 0) その教えを守って、 てあげなさい、と言われたと言い セン病療病院に出 最初は九州の生の松原 向む した 、ます。 が

そこで取り 良青年を十数名連れて行き、 をしながら更生に当たられました。そして、 れたお米を、 主に名古屋市内の生物をはいるという 一緒に農作業

お米をもらった人が涙を流して喜ぶ姿を見る。 活困窮者に施して回られました。 その

て感動した青年たちは、

すっかり立た

ち 直 な お

た と 聞 ίV てお ります。

ち溢れ、 終戦直後、 生きてゆくために大変な苦しみを 街頭に戦災孤児・浮浪児が満がいとう せんざいこ じ ふろうじ み

方寮に引取り、大勢育てられました。 重ねていました。そういう子どもたちを駒 で言ったら何千人にものぼる のでは ない 延 べ か

と思います。

ぐれてしまった子や、中には親が死 空襲に遭って家を焼かれ、 親や兄弟とは

んで、

自分の家どころか名前すら知らない。 たと言います。 そういう子に名前 幼子も をつけ

13

てあげるのも大切な仕事でした。たとえば

た。

に、

手がかりが何もない子には、村上先生のおで、 名前を頂いて、 ら「木下」という苗字がいいだろうとか、 一人の子は、木の下で泣いていたところか 「村上」と名付けたという

出来るまでに育て上げることが、杉山先生でき こともあったそうです。 このようにして、子どもたちが独り立ち

す。 すが、 に言われた「法華経の勉強」であったので 言い知れぬご苦労があられたと思いま 晩年、このようなことを言われまし

私は、 恩師・杉山先生が教えられたよう

実行を知りまして、今も喜びにもえ、一方とのことである。

は、皆さんに仏の教えの第一である妙法蓮のない。 では孤児の養育施設を経営し、また一方では孤児の養育施設を経営し、また一方で

華経のお話を聞いて頂くことを楽しみとし

子どもらも喜び、感謝しながら私の仕事、 ております。 おかげをもちまして、

社会事業と法華経を広めることに、働いて

くれております。

に行き着くかというと、自分の心に がいろいろあると思いますが、最後はどこ 仏さまの教えについては考え方、 捉え方

がたい、という心を持つことです。

人生には、損した、得した、という考え

方もありますが、それよりもっと大事なこ

とが、この、ありがたい、という感謝の心

を持ってゆくことです。自分が今こうして

いることがありがたい、また、思うように

う喜びの持てることが、究極の仏教信仰の ならないことはいろいろあるけれど、 し、こうやってあることはありがたいとい しか

功徳であります。

分の心を変えてゆく必要があります。

ただ、そういうふうにするためには、

自じ

うことですが、譬喩品第三にこんなことが 自分の心とはどういうものなのか、 とい

説かれています。

『諸苦の所因は

困ったこと、苦しいことはいろいろある 貪欲これ本なり』

けれど、その本はすべて貪欲、つまり、オ

レガ、オレガ、と我を主張するとか、 っともっと、と求めてやまない心にあると

いうのです。その我・欲をなくしたら次は

もなくなりますよ、というのです。 『依止する所なからん』で、悩みも苦しみ

み事などは、居場所がなくなって消えてゆ 依止とは、たよる、ということです。悩

くしかないのでしょう。

人間が今ある状況を単純に考えると「助」にはいる。

分けられるように思います。中には、自分が、か、助けられる、かの、いずれかに

はどちらでもない、という人がいるかも知

れませんが、極端なことを言うと、この二

つのどちらかだと思います。

れません。今は助ける側にいても、いつ助時により立場により、形は変わるかも知り、

う中にあって少なくとも今、人を助ける立いられる側に立つかも知れません。そうい

いことであります。そうした菩薩行のでき場にあるとすれば、これは本当にありがた

功徳があるにせよ、それはそれとして《人る自分を喜んでゆくのです。そこにどんな

ば、悩みなどは自然になくなってゆくと思う気持ちでゆくことが大事です。そうすれきま

いますし、少々あっても気にならなくなる

と思います。

あれば問題ありませんが、なかった場合功徳や利益を先に考えると、その実証が

う気分になり、やる気も失せてしまうでし、少しもいいことがない。損をした〟とい

きる身、立場がありがたいという心でやっょう。そうではなく、人を助けることがで

てゆくのです。それが仏の働き、菩薩行と

いうものです。

ますが、人間が生きてゆく上で一番の基は 日本はいろいろな問題を抱えており

人が多いと思います。しかし、 何かと問えば、 社会であり、国家と答えるしょかいこと 国家を形成

する基本となる一番の単位は、それぞれ 家庭であり、 家族であります。 リンゴに例えた 自分の一家 0

がきちんとしていないと、

ら芯が腐っているのと同じです。いくら天は くする道につながるとは思えません。 下国家を論じても絵にかいた餅で、国をよからかからん

に対して何か特別なことをして喜ばせてあ 御前様がここでおっしゃることは が家族

げなさい、というのではありません。いつ

分の立場、 役割をきちんと果たすこと、

もお話しいたしますように、家庭の中で自

父さん、お母さん、息子、娘と、立場はいとう かま きょこ なき たきば ろいろありますが、その立場をきちんとわ

きまえてゆくことが一番の基本です。

一家の柱である主人が、主人らしい仕事いのか、世界のはである主人が、主人のしい仕事

行くということも、途中でやめてしまった をしないと問題です。たとえば外へ働きに

をきちんとすればいいけれど、しなくなっ らだめです。奥さんも、家族のために家事

とをきちんとすることが、 たらだめになります。 お互いがするべきこ 家族に喜びを与

えることになるのです。

旅行に行くとか、プレゼントをするとか、

特別なことをして家族を喜ばせるというこ ともありますが、大事なことは、

活になり、 れをしてゆけば自然に家中がニコニコの生 えのことをあたりまえにすることです。そ 極楽になるに違いありません。

極楽を「極く楽しい所」と書く意味もそ

こにあります。

ます。 名東区に、 余談ですが、 以前車で行った時、オヤッ、と思っいができる。 極楽という地名の交差点があり 法音寺から少し東に行った

差点でしたが、それでも気分は良くなりま

した。

という交差点がありました。 さらにその少し先に行ったら「極楽西」 極楽にも東西

あたりま

南北があるのでしょうか。

たが今度は「蓮池」という交差点に出まし そこから少し行くと、そこは天白区でし

議もありませんが た。極楽に蓮はつきものですから何の不思 /極楽は結構広い んだ。

ると、 と思いました。 極楽関係の所がまだまだあるかも知 あの付近をもっと探 してみ

れません。

それはともかく、自分のできることをし

車屋さんがありました。何の変哲もない交

て周囲を見回したら、角に本屋さんと自転

極楽にする第一の基本であります。そして て家族を安心させることが、自分の家庭を

その上に相手を喜ばせ、力づけてゆくこと

ができれば言うことありません。

世の中には、あの人は仏さまのような人は、

にいると自然にまわりの人も感化され、見いると自然にまわりの人も感化され、見い こうしたことが日常生活の中で実行できてにもしたことが日常生活の中で実行できて だ、と言われている人がいます。 いる人なのでしょう。そのような人のそば きっと、

習うようになるだろうと思います。

極楽とか仏というと、とてもそんな大そ

決して、特別な人の特別な世界のことではけった。それであるとでは れたことは、と思われるかも知れませんが、

ありません。また、 特別なことをしなけれ

前の家族がお互いに助け合い、みんながニ ばいけないというのでもありません。目の

となり、そこに住むみんなが コニコできるように心がけている所が極楽 かが仏さまが

ません。胸を張って菩薩行を実行してまい なれるのです。少しも遠慮する必要はあり

りましょう。

— 12 —